

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490800396	事業の開始年月日	平成29年12月1日
		指定年月日	平成29年12月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホームソラスト西柴		
所在地	(236-0017)		
	神奈川県 横浜市 金沢区 西柴 2-28-8		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果 市町村受理日	令和5年1月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

西柴は入居者様が6人と、少ない人数のグループホームです。そのため、個人の性格や、生活習慣を尊重した支援が可能です。皆さん、自己を主張されるので時には諍いも起きますが、これも皆さんお元気ならではの事。事業所開始以来の長い方が2人、在籍されています。建物は古いですが、それを感じさせない明るい作りです。階段の程よい幅や、明り取りのある天井、自動水栓等すべてにおいて創設者の思いが反映されています。医療連携も取れています。訪問看護師さんがとても熱心な方です。何よりスタッフも、勤続年数が長く、高年齢ですが頑張っていて坂を上って通ってくれています。ご近所の方も優しく、理解があります。地域の方にも恵まれています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年11月14日	評価機関 評価決定日	令和5年1月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京急電鉄「金沢八景」駅東口乗り場7番から「金沢工業団地循環バス」に乗り、西柴4丁目のバス停で下車します。少し坂を上ると眺めの良い景色が広がる環境です。周囲は交通量が少ない閑静な住宅地です。コロナ禍で外出もままならない現状ですが、近くの小学児童たちの登下校時の声も聞こえて、利用者は日当たりの良いベランダでの外気浴をゆっくりと楽しめます。

<優れている点>

家庭的な空間の事業所で、戸建て住宅型施設です。一般住宅のような居室の配置では家族と自宅にいるような落ち着いた生活を営むことができます。利用者への日々の支援を丁寧に行い、利用者の少しの体調変化にも訪問看護師との連携により初動処置を行い、迅速な処置が実施されています。

<工夫点>

管理者が中心となって、今後導入予定のタブレットによる、経時記録の活用手順の確認と利用者への支援の充実を推進する為の研修が活発に行われています。記録の管理と対応分析をする事だけでの電子化に終わらせない為に、書面にも整理して落とし込みを行い、誰もが手に取れる記録データの見える化も併せて検証中です。管理者とベテラン職員たちで作る静かで家庭的な雰囲気が利用者には落ち着きを提供しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームソラスト西柴
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	本社の理念が新しくなり、掲示しています。デジタル化を促進した内容で、スタッフと共有しています。	毎月の会議の中で管理者とベテラン職員が日々の思いを理念と共に話合っています。利用者が自立しながら家族と共に穏やかに生活するような環境をつくることを目指し、職員全員で家族の一員のように見守り、支援することに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍ですが、自治会との連絡は維持しています。	法人より新型コロナウイルス感染症から利用者、職員を守る為の指示が出ています。家族、友人たちとの面会も中止してクラスターの発生も抑えています。事業所や商店街のイベントが万全を期して開催告知される回覧板を見れることを事業所の全員が楽しみにしています。	コロナ終息後を見据えた、認知症への正しい理解と支援の情報を地域へ発信することで、災害時にも協力しあえる日頃からの関係作りの再開が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で、地域の中学生による職業体験も行えず残念です。学校側からはアンケートがあり、状況が良くなったら、受け入れすると答えています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響で、顔を合わせての会議は控えています。2か月に一度、書面開催で、ご家族の意見や会員の皆さまとの状況を共有し合っています。	コロナ禍の現在は事業所の活動やヒヤリハット事例などを書面報告で行い、意見や要望をFAXや手紙で聞いています。民生委員、自治会、地域包括支援センター職員、家族が集まれる対面での推進会議の開催実施を待っている状況です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員の来訪も自粛されています。市の生活支援の担当の方が変わり、挨拶に来られました。	管理者は高齢障害支援課との連絡や相談を頻繁に行っています。コロナ禍による対応などの情報交換は行政からの情報開示を受けています。至近の行政側担当との互いの「ほう、れん、そう」ではクラスター排除に向けた相談をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	スタッフミーティングで、定期的に身体拘束防止会議を開いています。またe-スクールでスタッフ各々学んでいます。	法人の下で厳しい行動規範を学び、実践する研修プログラムを受講しています。また、事業所でも身体拘束適正委員会を3ヶ月に1回開催し、チェックリストへの反省点と検証を行っています。職員はいつでも携帯電話でセルフチェックができるネットワークも活用しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	本社から3カ月毎に虐待に関するチェックシートが配られ、全員の提示が求められています。また、何かあれば管理者が監視カメラの映像をチェックする体制が整えられています。	職員は「～さん」を付けて声掛けしています。管理者は日頃から職員の接遇マナーを確認し指導しています。虐待防止委員会の学びによる知識の集積や意識の改革だけではなく、「日々職員自身が支援しながら考える癖を身に付けること」と指導しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を活用されている入居者様があります。状況を常にお電話や毎月の訪問で把握されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	7月に新しい入居者様を迎えました。本社の担当者と管理者とで、契約時の説明を行い、ご家族からの質問等に答える事ができました。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議時の書面で意見を募ったり、ご家族に電話で状況報告の際、様々な意見を伺っています。例えば面会の希望等、然るべき対策を講じて頂きご要望に答えています。	電話連絡を中心に「家族の意見の反映」の対応をしています。月に1度の「お便り」に家族からの返信も届きます。管理者は「もっともっと利用者や家族の心配、不安、要望を聞き出すこと」を念頭に日々努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は、常に職員の要望を聞く態度を心がけています。シフトは100%希望に添うよう考えています。	事務所のドアをいつもオープンにし、職員が出入りしやすい様にしています。職員が来なければ管理者が出て行き、話し合うことを大切にしています。スタッフ会議では皆で同じ弁当を食べながら、シフトチェンジや研修のあり方などの話し合いをしています。1対1による個別の会話も大事にしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者や管理者は、看護師資格を持つスタッフやケアマネの給与水準の見直しを要求し、結果、7月の給料に反映させる事が可能になりました。	人事管理では定期昇給、定期の研修プログラム、資格取得支援制度、職員の自己実現への支援などが充実しています。働きやすい環境を目指して一つひとつ確実にできることから行っています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍で顔を合わせての研修が行えない中、チームスや、zoom、e-スクールといったリモートでの研修が進められています。現在、No.2の育成計画の拡充が求められています。	法人による充実した職員への教育事業を整備しています。法人による研修（ソラスクール）では職員も管理者もオンラインによるシステムで日々の忙しい中でも定期的な研修で学ぶことができます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	金沢市の「グループホーム連絡会」は現在、活動休止状態ですが、メンバーとの付き合いはあり、情報交換を行っています。有意義な研修を紹介され、顔を出しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	今回、新しくサービスを受けられる方と、ケアマネージャーを通じて、ご家族やご本人の見学に応じ、納得の行くまで、お話をさせて頂きました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	在宅時のケアマネージャーと知り合いだった事もあり、家の構造、またご家族との関係性を把握する事ができました。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居に至るまでの経緯をお聞きし、ご家族の想いを受け止めました。それを踏まえてご本人の気持ちをどう受け止め、安心して頂けるか、今も模索中입니다。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な方に朝は、ハンディ掃除機やモップで掃除をお願いしております。声かけしてできる行為を奪わない様、気をつけて行っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	今年も顔を見ての会議は行えませんでした。書面や電話、メール等で、情報交換をしております。敬老の日や、100歳のお祝いを迎える方がいます。ご家族に、外食に連れて行って頂く様お願いしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	書面や電話で情報交換をしています。コロナがもう少し落ち着いたら、新しい入居者様の近隣だった方をホームにお招きしたいと考えます。	コロナ禍での関係継続支援は厳しい現状ですが、電話の取り継ぎなどは行っています。職員全員で利用者のストレス、不満、不安を取り除くことに注力し、小さなことでも実施しています。室内でのレクリエーションやベランダでの外気浴もしています。珍しいおやつなどでの楽しめるような工夫もして	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	少人数のホームなので、利用者同士の関係には大変気を使います。現状に添って、席替えを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した方との連絡は、守秘義務の観点から、こちらからは行っていません。相談事があれば、できる限り、支援いたします。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者お一人ひとりの個性を重視し、意向に添うようなケアに努めています。自由な生活を第一に考えて支援しています。	家族から聴き取った内容や、散歩や入浴など日常のケアの中からも汲み取っています。症状のケースが多い帰宅願望の利用者にはじっくり話を傾聴や気分転換に散歩などを行っています。利用者の要望や意向は申し送りノートに記録し、職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の状況、入居に至る経緯を把握し、入居によっての心の変化に気をつけて、馴染んで頂ける様、ケアしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝はお掃除や、血圧もご自分で可能な方は行って頂いています。また皆さん、尿意を感じたら、ご自分で何回でもトイレに通われています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人が安心して生活頂けるよう、ご家族の力をお借りしています。電話やメールでケアマネジャーや訪問看護師の意向を伝え、相談し介護計画書に盛り込んでいます。	「利用者が安心して暮らせる」ことを大切にケアプランの作成をしています。本人や家族の意向を理解し、ケアマネジャーを中心に職員・協力医・看護師の意見を参考に作成しています。見直しも、同様に関係者の意見を参考に適宜行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	スタッフミーティングを、看護師の訪問する時に開催し、情報を交換しています。集まりは良く、皆さんで話しあった事を議事録に起こしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	今年もコロナ禍で、ご家族をはじめ他からの来訪は控えています。収束したら、ボランティアの方々を積極的に迎えて行いたいです。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	横浜市のオムツ給付事業を利用しています。また地域の福祉用具の会社からエアマットを格安で譲って頂き使用しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	隔週に訪問診療があります。また毎週訪問看護師さんが訪れ、かかりつけ医との連携も取れています。	事業所の協力医がかかりつけ医として月2回の訪問診療を行い、同クリニックから訪問看護師が毎週来所し健康管理を行っています。かかりつけ医以外の受診は、原則家族に同行と受診結果の連絡をお願いし、医療情報を管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週、看護師が訪問し状況を把握しています。指示に添って介護士のケアが適切に行われています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、できるだけ、早期に退院できる様、情報交換に努めました。こちらからカンファレンスを依頼し、ホームに戻り、ターミナルケアを行う事ができました。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者が退院され、ターミナルとなりました。先に看護師の説明を皆で共有し、看取りについての勉強会をおこないました。その前に他のGHの管理者から、看取り加算についての案内をもらい、準備に努めました。	看取り対応の実績があります。看取りケアに当たっては法人のマニュアルやインターネット等で学習し、訪問看護師から指導を得て対応に当たっています。尚、終末期の対応については、家族へ契約時に説明をし、意向を確かめています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	玄関先にAEDを設置しています。ご近所の方が活用できる様、貸出し可能です。スタッフミーティングで、感染症対策や意識喪失をした時の応急方法を学びました。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	今年もコロナ禍で、避難訓練をスタッフミーティングの時に確認しました。バンダナパトロールを通して地域と連携をしています。	防災、防火訓練を各々年2回、職員と利用者が参加し行っています。地域の一員として防災活動に参加しています。コロナ禍に入ってから、職員と夜勤を想定した書面での訓練を行っています。災害備蓄品は3日分用意しています。	書面の防災訓練では、災害発生時に実際の行動が取れるか不明確です。備蓄品の保管も3ヶ所に分散しています。防災訓練を実際に行うこと、備蓄品保管は格納倉庫へ集中することが望まれます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの個性を尊重し、声かけには気をつけています。お風呂を拒否される方も、無理強いせず、上手に気持ちよく入って頂ける様、模索しています。	利用者との対応では「耳を傾け、キッチンと聴く」ことに留意し、利用者のプライドを傷つけないようにしています。接遇、人権擁護に関する研修を受けています。管理者は受講後の把握の度合いによって職員への指導対応を変えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の生活習慣を大切にしています。利用者様は段々に入浴が難しくなってきた方もいますが押し付けず、お気持ちを尊重してケアする様、努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お食事や、おやつの時、リビングに集まって頂きますが、それ以外は皆さまお好きに行動されています。スタッフはいつでもお話を聞く体制を取っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節毎に衣類を箆笥に衣替えしていますが、皆さま同じ洋服に固執します。清潔に保つよう、気をつけています。お風呂上りに化粧水を付けて頂いている方もいます。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は材料のまま届きますので、いつも作り立てを提供できます。揚げ物も皆さんお好きです。可能な方には下膳や、食器洗いもお願いしています。	献立・食材調達を外部に委託し、職員が調理を行っています。月に一度、利用者の要望を聞き、特別食を提供しています。利用者は、お茶出しや配膳、下膳、食器洗い等の手伝いで参加している人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立はカロリー計算がしっかりとされています。キザミ食の方が増えてきました。水分摂取量は特に注意していません。食事量も記録して、体重の増減を気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎週、訪問歯科があり、先生や歯科衛生士さんの指導のもと、スタッフは毎食後、歯ブラシ・歯間ブラシを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	いつでも、皆さん、尿意を感じたらご自分でトイレに行かれます。そのため、頻回な方もいらっしゃいますが、そのまま、支援させて頂いています。	殆どの方が自立排泄を行っています。排泄の自立度が高く、おむつは使用せずトレーニングパンツを使用しています。入居前の排泄の自立度と比較して、室温管理等の居住環境やケア環境の変化等で、排泄の自立度は改善しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	歯や嚥下状態により、キザミ食の方が増えています。昼食前には口腔体操を行うよう支援しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴困難な方がいます。その方は時間や、曜日に囚われず、声かけしていません。他の皆さまは、週2回、入浴を楽しんで下さっています。	週2回、午前入浴を基本にしています。常に足湯をし、衛生管理に配慮しています。利用者と職員が1対1になる入浴時には本音を傾聴する時間になり、応対に活かしています。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず、状況を見ながらこまめに入浴を促します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣を大切にしています。皆さん自由にお部屋で休んだり、リビングに來たりされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとり、毎週の訪問診療時に状態を医師に報告し、その都度漫然と薬が出ない様、支援に努めています。薬が変わる時は、効能や副作用をノートに書き出して注意を促しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	コロナ禍でなかなかレクリエーションもできませんが、音楽レクを行う事ができました。9月は100歳になる方のお誕生日や敬老の日がありますので、お祝いをしたいと思います。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で、なかなか戸外に出かけられません。ご家族も用心されて外出支援もお願いできませんが、お部屋で一緒に過ごして頂くまでには回復しました。今度、金沢公会堂で行う「民謡の集い」にはぜひ、お連れしたいと思います。	天気の良いには戸外に出るのが日課となっています。職員と共に近隣を10～30分かけて散歩しています。遠出のドライブや小旅行は、コロナ禍のため見合わせています。買い物や専門医受診時の同行は、必要に応じて行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	GH内ではお金の所持は、ご遠慮頂いております。外出の際にはご支援したいと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも、お好きな時にお電話でご家族と連絡を取って頂けます。新しい方のご家族は毎週、かけてきます。メールも使用しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、各居室の温度管理は職員が管理しています。壁飾りも月や季節が変わる度、模様替えをしています。誕生日は飾りをいつもより豪華にして楽しんで頂ける様、考えています。	リビング前のガラス戸は掃き出しになっており、採光も十分取れて、明るくなっています。居心地良く過ごし、食事をとったり、お茶を飲んで寛げる空間となるように心掛けています。壁には貼り絵等を展示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1階にリビング、各居室は2階にあります。いつでもお好きな時に、行ったり来たり階段を上り下りされます。エレベーターもご自由に使います。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には、その方の大事な小物や家具を持ち込んで頂いています。新しく入居された方は良く使っていた椅子や、写真を持ってこられました。	エアコン、ベッド、クローゼット、照明器具等が備え付けられています。馴染みの品の持ち込み等も自由ですが、高価なものや火器類は制限しています。居室の整頓・清掃等は利用者の役割ですが、高齢化に伴い行き届かない所は職員がサポートしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	2階に各居室があるため、毎日の階段の上り下りがADLを保つ事に一役かっています。新しい方のため、トイレの場所は大きく「トイレ」と表示しています。		

2022年度

事業所名 グループホームソラスト西柴

作成日： 2023 年 1 月 19 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	新しい年になってコロナとインフルエンザのダブル流行となり、また面会制限を設けました。	2月に予定していた、中学生の職業体験も見送りました。来年は実現させたいです。暖かくなったら、商店街の外出から始めたいと思います。	毎月届く会報を見て、状況をふまえながら自治会のイベントに参加したいと思います。	12ヶ月
2	35	入居者様のADLが落ちていき、寝たきりの方も現れ、現実的な避難方法を模索中です。	夜勤帯設定だけでなく、日勤帯も視野に入れた避難計画を練って実行します。	春になり、暖かくなったら3か月以内のスタッフミーティング時に、避難訓練を行います。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月